

鳩山町立図書館がおすすめる

**親子のふれあい
読み聞かせ絵本**

～ 0歳から3歳児向け ～



鳩山町立図書館

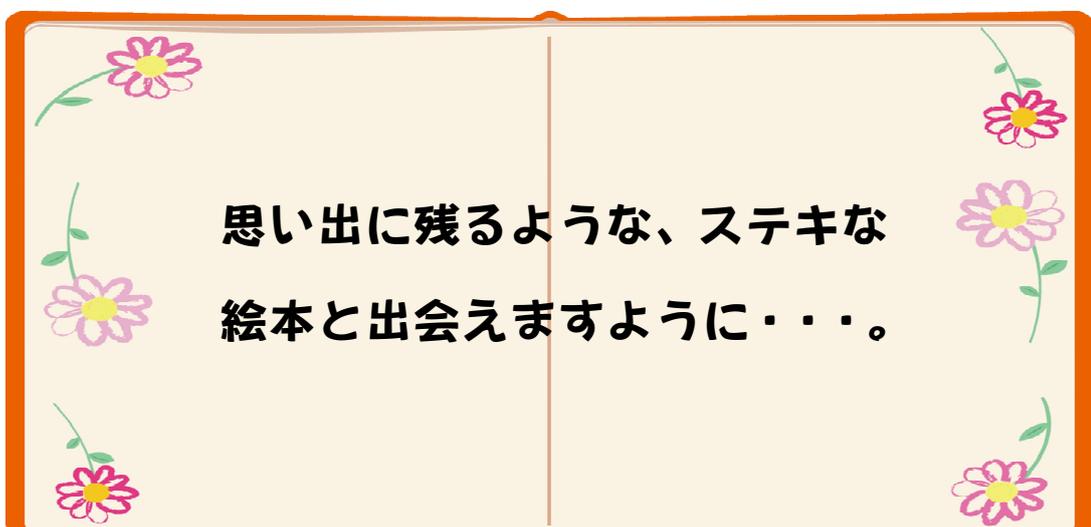
(令和8年4月発行)

★は じ め に★

「赤ちゃん絵本」と聞いて、「言葉も文字もわからない頃から絵本？」と思われる方が多いかもしれません。実は、赤ちゃんは絵本がとっても大好きなんです！赤ちゃんは心地よいおはなしのリズムに体を動かしたり、見たことがあるものが登場して嬉しそうに声を上げたりと、豊かな反応を示してくれます。読み聞かせの際には、ぜひ、その反応に応えてあげてください。絵本を通じたお子さんとのコミュニケーションは、きっと親子のきずなを強めてくれるはずです。

このリストに掲載された絵本は、すべて鳩山町立図書館に所蔵があり、貸出が可能です（令和8年4月現在）。親子のふれあいのひとときに、ぜひご活用いただければ幸いです。

令和8年4月 鳩山町立図書館



《3か月～5か月ごろ》 ～はじめての絵本～

この頃の赤ちゃんは手足を盛んに動かし、「アー」や「ウー」といった声も出すようになるなど、少しずつ活発な動きを見せるようになります。また、首がすわって視野が広がるようになるので、身の周りのものに興味を持って、触ったり目で追いかけるようになります。

大人から語りかけたり笑いかけたりすると、赤ちゃんはそれに応じてよく笑ってくれるようになります。そんな赤ちゃんにおすすりめしたい絵本としては、くり返しのリズムが楽しいものや、鮮やかな絵が描かれたもの、スキンシップにつながるようなものなどがあります。読み聞かせの際は、ぜひ抱っこしてお子さんの顔を見ながら行ってみてください。言葉も文字もわからなくても、愛情はきっと伝わります。



3か月～5か月ごろ

絵本

紹介文

『くっついた』



作：三浦 太郎、出版：こぐま社

ページをめくるといろいろな動物たちが登場し、次々に「くっついた！」をします。その繰り返しのリズムが楽しい絵本です。最後は赤ちゃんをはさんで家族仲良く「くっついた！」をする微笑ましいひとコマが描かれています。赤ちゃんの読み聞かせの時には、ぜひ「くっついた！」を試してみてください。

『ばあ〜っ!』



作：いしづ ちひろ
絵：くろざわ ゆうこ
出版：くもん出版

いつも赤ちゃんと一緒にくまさんや車、あひるさんたちがどこかに行ってしまいました。赤ちゃんは「どこ どこ？」と一生懸命探しています。くまさんたちはいろいろなところにかくれんぼしていて、「ばあ〜っ!」と赤ちゃんの前に登場！最後はみんなで「ばあ〜っ!」をする、幸せいっぱいの絵本です。

『ごぶごぶ ごぼごぼ』



作：駒形 克己、出版：福音館書店

「ぷーん」「ぶく ぶく」「じゃわ じゃわ」など、この絵本の文章は楽しい擬音語で書かれています。また、色鮮やかな色彩で描かれ、ところどころに不思議な穴も開いていて、新しい刺激に興味津々の赤ちゃんにはピッタリな絵本です。丈夫なボードブックですので、ぜひ、赤ちゃんも触って遊んでみてください。

3か月～5か月ごろ

絵本

紹介文

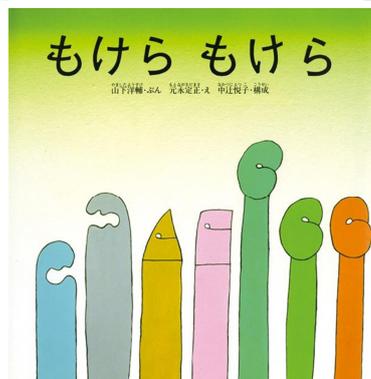
『こちょこちょ』



作：福知 伸夫、出版：福音館書店

この絵本にはいろいろな動物たちが登場し、みんな「こちょこちょ」をされて体をよじらせて大笑い！最後にはなんと、小さな小さなアリさんまで登場し…。アリさんが「こちょこちょ」された様子は、読んでからのお楽しみです。絵本を読み聞かせたあとには、ぜひお子さんにもこちょこちょしてコミュニケーションを取っててください。

『もけら もけら』



文：山下 洋輔、絵：元永 定正
構成：中辻 悦子、出版：福音館書店

「もけら もけら」なんて不思議な言葉ですね。実はこの絵本の文章を担当した山下洋輔さんは、海外でも高い評価を得ているジャズ・ピアニストです。「しゃばだしゃばだ」「だばた どばた」など、絵本に登場する数々の不思議な擬音語は、音楽家ならではのリズムカルな音を表現した言葉といえます。赤ちゃんへの読み聞かせの際には、歌うように読んでみてください。



《9か月～11か月ごろ》 ～絵本に興味を持ち始めたら～

この頃の赤ちゃんは手で物がつかめるようになって、色んなものを触るようになります。また、おすわりやたっちができるようになるため、より視野が広がって視覚から様々な情報が得られるようになり、何にでも興味を持ちます。好奇心旺盛なので、読み聞かせをしようとしたら絵本をうばわれて読み聞かせどころでは・・・なんてことも。でも大丈夫です！それだけ絵本に興味があるのでしょう。読み聞かせに決まりはありませんし、強制して行うものでもありません。ぜひ、お子さんの気持ちに沿った自由な絵本とのふれあいを実践してみてください。

大人をまねようとして、色々な声をあげるようになります。絵本の読み聞かせを通じて、お子さんにたくさん語りかけてあげてください。



9か月～11か月ごろ

絵本

紹介文

『みず ちゃぼん』



作：新井 洋行、出版：童心社

ページをめくると水のしずくが「びちゃ」、あっちこっちから「ぼと」「ぼた」、さらにはたくさんの水が勢いよく「じょぼぼぼー!」。子どもにはとっても身近な自然である「水」が主人公の絵本です。ゆたかな表情がかわいいしずくたちにもぜひ注目してみてください。同じ顔はあるかな？

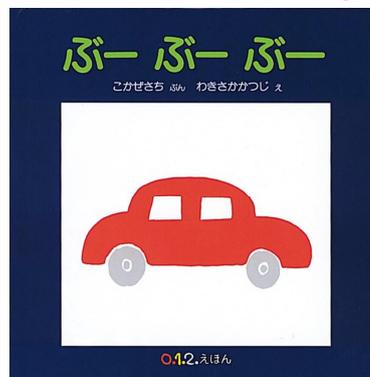
『あっ!』



文：中川 ひろたか、絵：柳原 良平
出版：金の星社

この絵本の主人公は、乗り物が大好きな男の子です。ミニカーを見つけて「あっ!」、ページをめくると車の運転手さんに変身。次々にいろいろな乗り物が登場し、ついには飛行機のパイロットに大変身! 乗り物が大好きなお子さんにおすすめの絵本です。見たことのある乗り物はあるかな？

『ぶーぶーぶー』



文：こかせ さち、絵：わきさか かつじ
出版：福音館書店

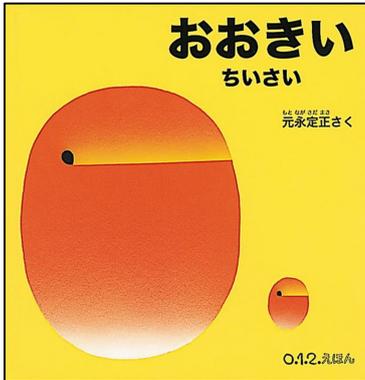
この絵本にはカラフルな車が登場します。車は「ぶーぶーぶー」、「ぶーぶーぶー」、「ぱっぱっぱっ」など、いろいろな音を立てながら走っていきます。最後に登場した車は、「ぶわーん」と勢いのある大きな音を立ててやってきました。さて、どんな車でしょうか？

9か月～11か月ごろ

絵本

紹介文

『おおきい ちいさい』



作：元永 定正、出版：福音館書店

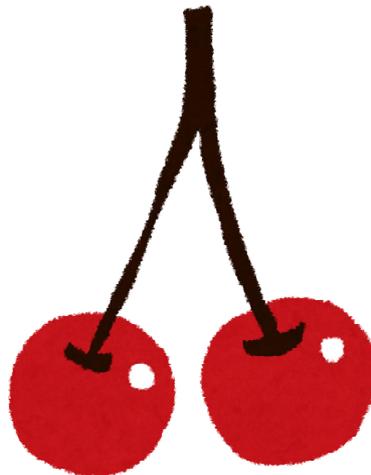
ページの見開きいっぱいサイズの違う同じ絵が描かれていて、「おおきい」、「ちいさい」と大きさを比べてしています。日本のモダンアートの第一人者、元永定正さんの絵は鮮やかでとてもユニークです。大きい方を大きな声で、小さい方を小さな声で、音でも大きさの違いが分かるように読み聞かせをしてみるのはいかがでしょうか？

『くだもの』



作：平山 和子、出版：福音館書店

さくらんぼ、すいか、ぶどう、くりなど、色々な果物がまるで写真のように繊細なタッチで描かれ、なんだか、おなかがすいてきてしまいます。それぞれの果物は、そのままの形と、食べるために切ったり皮をむいた状態で描かれているので、お子さんが果物の名前がわかるようになった時にも、おすすめの絵本です。



《1歳ごろ》

～絵本のストーリーが少しわかってきたら～

この頃になると、車や電車を見て喜んだり、動物に興味を示すなど自分の好みを出すようになってきます。そのため、同じジャンルの絵本しか選ばないことも……。お気に入りの本ができるのは、とても良いことです。その本との出会いがきっかけとなって、将来読書好きになるかもしれません。

1歳になって少しずつ言葉が分かるようになっていたり、歩けるようになっていたり、体も大きくしっかりしてきて、お子さんの成長を大いに感じられている頃だと思います。とはいっても、絵本1冊を最初から最後まで耳を傾けるようになるのはもう少し先かもしれません。無理に最後まで聞かせる必要はありません。お気に入りの部分を何度もくり返し聞くのが楽しい場合もあります。

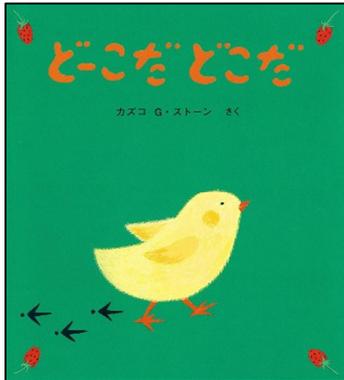


1 歳ごろ

絵 本

紹 介 文

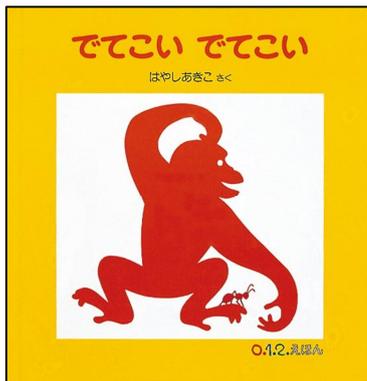
『どーこだどこだ』



作：カズコ G. ストーン、出版：童心社

絵本の主人公は小さなひよこのピーちゃん。野原の中にある葉っぱやアサガオなど、色々なところにかくれんぼしながらお散歩しています。「どーこだ どこだ」、ピーちゃんが絵本のどこにいるかお子さんに指でさすよう、ぜひ声を掛けながら読み聞かせてみてください。

『でてこい でてこい』



作：はやし あきこ、出版：福音館書店

この絵本には、ビビッドカラーの丸や四角や三角の影が出てきます。実はこの影の中には、ある動物たちがかくれんぼしています。「でてこい でてこい」の掛け声で、影の中から動物のシルエットがあらわれます。さて、どんな動物がかくれんぼしているのでしょうか？当てっこしながら楽しんでみてください。

『がたん ごとん がたん ごとん』



作：安西 水丸、出版：福音館書店

「がたんごとん がたんごとん」と汽車が走ってきました。途中で、「のせてください」と声をかけられ、哺乳瓶に、コップにスプーン…、汽車はたくさんのお客さんを乗せて走ります。お子さんを膝の上に乗せて、「がたんごとん がたんごとん」とゆったり揺らしながら、汽車に乗っているように読み聞かせてみるのはいかがでしょうか？

1 歳ごろ

絵 本

紹 介 文

『おててがでたよ』



作：林 明子、出版：福音館書店

主人公の赤ちゃんは、ひとりでがんばってお着替えに挑戦中。まずは、小さなおててが出てきました。つづいて、「ばあーっ」とかわいいお顔が出てきました。あれれ、片方のあんよがなかなか出ないよー。着替えという身近な生活をテーマにした絵本です。さてさて、赤ちゃんはじょうずにお着替えができたかな？

『おさんぽ おさんぽ』



作：ひろの たかこ、出版：福音館書店

雨がやんだので、お気に入りの青い長靴をはいてお散歩に出かけます。だんごむし、あり、かたつむり、かえるなど、小さな生き物たちもお散歩しています。歩いていると、目の前にあらわれたのは大きな大きな水たまり。いつもはいている靴だとびしょぬれですが、今日はお気に入りの長靴です。さあ、どうしましょう？



《2歳ごろ》

～主人公になった気持ちで～

「魔の2歳児」・・・この頃になると自己主張が強くなったり、何でも「いや！」と言って大人を困らせたり、さらに活発に動きまわるので心配が尽きない・・・。子育てがツライと感じられる方も多いかもかもしれません。大変な毎日と思われそうですが、この頃になると、絵本1冊を最後まで聞けるようになり、絵本が大好きな子が多くなります。

簡単なストーリーのある絵本を理解し、感情表現も豊かになる頃なので、お子さんと一緒に絵本の内容を楽しめるようになります。基本的な生活習慣に関心を持つようになり、個人差はありますが、手洗いや食事、トイレ、着替えなどを自分でやりたい気持ちが強くなる頃です。生活に関する絵本を読み聞かせてあげることで、自立につながられるかもしれません。

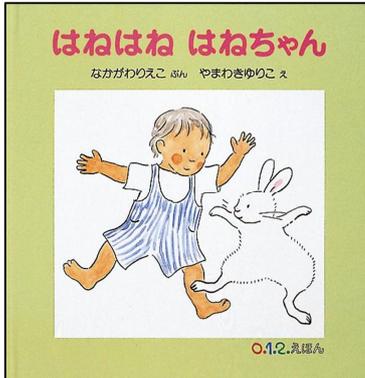


2歳ごろ

絵本

紹介文

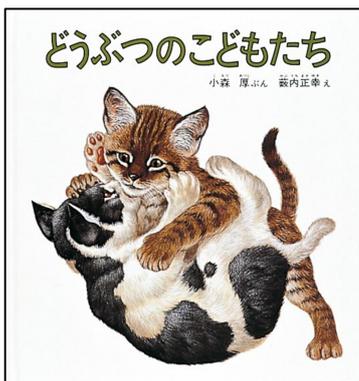
『はねはね はねちゃん』



文：なかがわ りえこ、絵：やまわき ゆりこ
出版：福音館書店

姿勢がとても良いはねちゃんが、動物さんたちと体操をします。背の高いキリンさんに手が届くように、うんと背伸びをします。カメさんとは一緒に首や足を出したり、引っ込めたり。ぴょんぴょん飛び跳ねるウサギさんも出てきて、はねちゃんも一緒にぴょんぴょん。みんなもはねちゃんの真似をしてみましょう。

『どうぶつのかどもたち』



文：小森 厚、絵：藪内 正幸
出版：福音館書店

イヌやウマ、キリンにヤギにゾウなど…、たくさんの種類の動物の子どもたちが追いかけてっこをしたり、押し合ったりして、みんなで体を動かして遊んでいるように見えますね。このような動物の子どもの行動は、成長した後の体の動きを練習するためのものと考えられているそうです。

『おふろだ、おふろだ！』



文：渡辺 茂男、絵：大友 康夫
出版：福音館書店

たくさん遊んだくまくんは、体じゅうどろんこに。まあ大変！くまくんはお母さんにお風呂場に連れて行かれ、お父さんと一緒にお風呂に入ることになりました。シャワーをあびて、湯ぶねにつかり、頭や体をきれいに洗って、背中も洗っこ。最後にまた湯ぶねにつかって10まで数えたら、すっきりさっぱり。くまくん、お風呂上がりの牛乳はおいしいね。

2歳ごろ

絵本

紹介文

『サンドイッチサンドイッチ』



作：小西 英子、出版：福音館書店

サンドイッチはどうやって作るのかな？この絵本はサンドイッチの作り方を教えてくれます。まずはパンにバターを塗って、レタスやトマト、それからチーズものをせて。さあ、次は何をのせましょう？どんな食べ物が出てくるのか、ページをめくるのが楽しみになる絵本です。絵本を読み終わったら、ぜひ、お子さんと一緒にサンドイッチを作ってみてください。

『アンガスとあひる』



作・絵：マージョリー・フラック
訳：瀬田 貞二、出版：福音館書店

主人公のアンガスはスコッチ・テリアの子犬。好奇心旺盛で、身のまわりのものは何でも知りたがりでした。そんなアンガスが一番知りたがっていたのが、庭の向こう側から聞こえてくる、「ガー、ガー、ゲーック、ガー！」といううるさい音でした。ある日、アンガスはおうちの外に飛び出すことに成功し、知りたかったこの音の正体を突き止めて…。



《3歳ごろ》

～長いおはなしもOKになります～

幼稚園や保育園などで集団生活を経験することで、たくさんの友達や大人たちと関わるようになって人間関係が広がってきます。集団生活の中で簡単なルールを理解し、思いやりの気持ちが芽生えたり、我慢ができるようにもなって、ちょっぴり社会性が身についてくる頃です。

3歳ではまだ自分で絵本を読むことは難しいですが、長いおはなしでも集中して聞いてくれるようになります。様々なジャンルの絵本を読み聞かせ、お子さんのお気に入りを見つけさせてあげるのはいかがでしょうか？おすすめの絵本の対象年齢はあくまでも参考ですので、赤ちゃん向けでもお子さんが気に入ったのであれば、ぜひ読んであげてください。



3歳ごろ

絵 本

紹 介 文

『わたしのワンピース』



文・絵: にしまき かやこ、出版: こぐま社

ある日、うさぎさんは空から落ちてきた真っ白い布でワンピースを作りました。「ラララン ロロロン」、ステキなワンピースができてうさぎさんは嬉しそうにいろいろなところに出かけます。すると、真っ白だったワンピースが花柄や水玉模様など、次々に変わっていきます。次はどんな模様になるのか、想像しながらページをめくってみてください。

『どうぞのいす』



作: 香山 美子、絵: 柿本 幸造
出版: ひさかたチャイルド

うさぎさんがいすを作って大きな木の下に置きました。いすの脇には「どうぞのいす」と書かれた看板も立てて。すると、最初にやってきたろばさんは「どうぞのいす」にドングリを置いてひとやすみ。ろばさんの後も「どうぞのいす」には次々と動物たちがやってきて…。「どうぞ」に込められた優しさが伝わり、心があったかくなる絵本です。

『チリとチリリ』



作: どい かや、出版: アリス社

チリとチリリは小さな姉妹。早起きした日は良いお天気。「チリチリリ チリチリリ」、ふたりは自転車をこいで森の中へでかけることにしました。ふたりが入ったのは、動物たちが開いた喫茶店やパン屋さん、ホテル。それぞれのお店には、いろいろなものが用意されていました。柔らかなタッチで描かれた絵は、なんだか幸せな気持ちでいっぱいになります。

3歳ごろ

絵本

紹介文

『めっきらもっきら どおんどん』



作：長谷川 摂子、画：降矢 なな
出版：福音館書店

「めっきらもっきら どおんどん」、なんだか不思議な言葉ですね。これは主人公のかんたくんが、誰もいないお宮で大声で歌っためちゃくちゃな歌のひと節。ビューっという風と共にどこからか声がしてきて、かんたくんは知らない場所へ…。はたしてかんたくんはどこへ行ったのでしょうか？そして、元の世界に戻れたのでしょうか？

『こんとあき』



作：林 明子、出版：福音館書店

こんはあきのおばあちゃんが作ったきつねのぬいぐるみです。あきは赤ちゃんの時からいつもこんと一緒にです。あきが成長するにつれて、こんの縫い目がほつれるようになりました。そこでこんを治してもらうために、2人でおばあちゃんの家に向かいますが、様々なアクシデントが2人にふりかかります。お互いがかけがいのない存在であることに気づく冒険物語です。

『きよだいなきよだいな』



作：長谷川 摂子、絵：降矢 なな
出版：福音館書店

広い野原の真ん中に、巨大なピアノがあったとさ。そこへ子どもが100人やってきて…。巨大な石けんや、巨大な電話、巨大なトイレットペーパー…。子どもの身近なものが巨大化して、突然、野原の真ん中に出現したら、どんな反応をするでしょうか？「あったとさ、あったとさ」と繰り返しのリズムが楽しい絵本です。読み聞かせの時には、思い思いのリズムで読んでみてください。

3歳ごろ

絵 本

紹 介 文

『ちいさなちいさなおんなのこ』



文：フィリス・クラシロフスキー
絵：ニノン
訳：福本 友美子、出版：福音館書店

主人公は小さな小さな女の子。イスも、テーブルも、ベッドも、この子が使うものはみんな小さいです。垣根の向こうも大時計の文字盤も見えないし、ドアの取っ手にも手が届かない…女の子にはできないことがいっぱい。そんな誰よりも小さかった女の子でしたが、少しずつできることが増えてきたり、自分より小さなものを見つけます。子どもの成長が楽しみになる一冊です。

『ティッチ』



作・絵：パット・ハッチンス
訳：いしい ももこ、出版：福音館書店

主人公は小さな男の子のティッチ。お兄ちゃんのパート、お姉ちゃんのメアリがいる3人きょうだいの末っ子。3人は仲良く一緒に行動しますが、まだ体の小さいティッチは2人と同じように自転車に乗ったり、凧を揚げたりすることはできません。ある日、ティッチが持っていたとても小さな種を植えることになり…。小さなティッチが起こした大きな出来事とは？



鳩山町立図書館について



①子ども向けの主なイベントのご案内

- ・ 定期行事の詳細は、各 QR コードを読み取ってご確認ください。
- ・ 季節行事については開催日が近くなった時に、ホームページ等でお知らせします。

【定期行事】こどもおはなし会 	内 容：絵本の読み聞かせ、折り紙など 開催日：毎月、第1・第3土曜日 時 間：午前11時～午前11時30分頃まで 場 所：鳩山町立図書館1階おはなしコーナー
【定期行事】うさぎちゃんのへや 	内 容：絵本の読み聞かせ、手遊びなど 開催日：毎月、第2・第4金曜日 時 間：午前11時～午前11時30分頃まで 場 所：つどいの広場「ぼっぼ」
《季節行事》こどもの日映画会	内 容：子ども向け映画の上映会 開催日：5月5日（こどもの日）
《季節行事》一日司書体験	内 容：図書館のお仕事体験 対 象：鳩山町内在住の小学3年生～6年生 開催日：8月中（4～5回開催） 備 考：申込制、定員あり
《季節行事》こどもクリスマス会	内 容：手遊び、人形劇など 開催日：12月

②館内の設備や、サービスのご案内

◎おはなしコーナー◎

- ▶ 畳敷きのコーナーで、靴を脱いでゆっくりと読書ができます。
コーナーの中には、絵本がたくさんあります。



◎おむつ替えシート◎

- ▶ 障害者用トイレの中にあります。赤ちゃんをお連れの方も、安心して図書館をご利用いただけます。



◎読書手帳・読書シールの無料配布◎

- ▶ お借りになっている資料のデータをシールに印刷し、読書手帳に貼ることで読書記録がつけられます。希望される方は、図書館カウンターでお声がけください。

◎大型絵本、紙芝居◎

- ▶ 大人数での読み聞かせや、大きな絵で楽しみたいときにご利用ください。

詳しくは鳩山町立図書館ホームページ、または直接お問い合わせください。

③利用登録等のご案内

<p>利用登録ができる方</p> 	<p>①鳩山町に在住、在勤、在学の方</p> <p>②以下の市町村に在住・在勤・在学の方 東松山市・滑川町・嵐山町・小川町・ときがわ町・川島町 吉見町・東秩父村</p> <p>③以下の市町に在住の方 川越市・鶴ヶ島市・毛呂山町</p>
<p>《図書館利用登録に当たっての注意事項》</p> <p>(1) 上記の①～③のいずれかに該当する場合は、0歳から利用登録が可能です。</p> <p>(2) 直接、図書館に来館して利用登録を行う場合は、登録したい方の「住所」「生年月日」が分かるものを必ずご持参ください。</p> <p>(3) 小学生以下の方のご登録の場合は、保護者の方の「住所」「生年月日」が分かるものも必要となります。</p>	
<p>開館時間</p>	<p>○日曜日、火曜日～土曜日 午前9時30分～午後5時</p> <p>○水曜日(通年) 午前9時30分～午後7時</p> <p>○5月～9月までの土、日曜日 午前9時30分～午後6時</p>
<p>借りられる冊数等</p>	<p>○図書、雑誌、紙芝居等 20冊まで</p> <p>○視聴覚資料(CDやDVDなど) 3点まで (視聴覚資料を借りられるのは、中学生以上です)</p>
<p>お問合せ</p>	<p>鳩山町立図書館 〒: 350-0313 住所: 埼玉県比企郡鳩山町松ヶ丘3-19-1 電話: 049-296-5660 ファックス: 049-296-5661</p>

公式ホームページ https://www.town.hatoyama.saitama.jp/hatoyama_library/

↓下のQRコードからもアクセスできます↓

